

平成 18 年 3 月 27 日
海上保安庁

第 16 回日韓水路技術会議の開催結果

海上保安庁と韓国国立海洋調査院は、第 16 回日韓水路技術会議を 3 月 23 日～24 日に東京で開催しました。

今次会議では、短波レーダーによる海潮流観測やリアルタイム潮汐データ等に関する技術的な情報交換及び国際水路機関刊行物「大洋と海の境界」に関連する日本海の呼称問題についての協議を実施いたしました。

1. 期 日

平成 18 年 3 月 23 日（木）～ 3 月 24 日（金）

2. 場 所

海上保安庁海洋情報部庁舎内会議室

3. 出席者

(1) 海上保安庁

陶 正史海上保安庁海洋情報部長他

(2) 韓国国立海洋調査院

チュン・ユスブ韓国国立海洋調査院長他

4. 会議の概要

(1) 短波レーダーによるリアルタイム観測に関する情報交換について

我が国から短波レーダー観測について、観測場所、機材、観測データの提供方法について紹介し、また韓国からも同様の紹介が行われました。今後も、観測方法等についての情報交換を行うことで合意しました。

(2) GPS による地殻変動解析に関する情報交換

両国における GPS を利用した地殻変動観測について、使用機器、データ処理ソフトに関する情報交換を行いました。今後、さらに観測解析技術について情報交換を行っていくことになりました。

(3) 海流データの交換について

日本側から、日本の海洋速報、海流推測図、管区海洋速報について紹介し、これらの情報が航海目的の利用以外に海難救助等に

においても利用されていることを報告しました。今後、日韓間で漂流ブイを利用した海流データの交換について情報交換を行うこととしました。

(4) リアルタイム潮汐データの交換について

潮汐データの利用について、日韓双方から潮汐表などの刊行物の紹介を行いました。また、リアルタイムによる潮汐観測方法、観測データの提供方法について情報交換を行いました。

(5) 沿岸海洋環境に関するモニタリングについての情報交換

海上保安庁が東京湾の汚染メカニズムの解明のため実施しているモニタリングポストによる水質や流れの連続観測について紹介し、情報交換を行いました。

(6) 国際水路機関刊行物「大洋と海の境界」について

海図等における海洋名称のガイドラインとなる国際水路機関刊行物「大洋と海の境界」の改訂版の刊行計画に関連して、「日本海」の呼称問題に関する協議を行いました。韓国側は「東海」を併記すべきとの従来の主張を述べ、これに対し日本側は、「日本海」単独表記の正当性を主張し、議論は並行のまま終了しました。

本件については、今後も引き続き協議を実施することで合意しました。

5. その他

次回の日韓水路技術会議を、平成18年度後半に韓国で開催することが合意されました。